

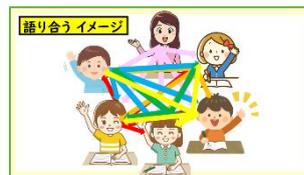
さんさん、きらきら 第21号

光り、輝く、チーム南陽小 ～考えよう、語り合おう～

令和4年12月7日
長崎市立南陽小学校
学校だより
校長 寺田 成広

10月11日の全校集会で伝えたこと

2学期は、始業式、10月11日の全校集会と3回に分けて、今年度の合言葉「考えよう、語り合おう」をテーマにして話しました。始業式では『語り合う学習のイメージ』を理解してもらうことに主眼をおきました。(学校だより第13号に掲載)



10月の全校集会講話では、『語り合うためにその1』として、「うなずきながら話を聞く習慣(くせ)を身に付けよう」と呼びかけました。下がその時使ったスライドです。

うなずきながら
話を聞く
なぜ身に付けてほしいのか...

語る人にとっては、
聞く人にとっては、
聞くことに集中できる

語る人にとっては、
・語ることがふえる
(大学の実験で1.5倍になった)
・「いい人だなあ。」と思う

うなずきながら 聞く
習慣(くせ)を身に付けて
語り合いを高めよう

これまでの経験から、うなずきながら話を聞いている子どもは、内容の理解がよくできていると感じています。おそらく、「うなずく」ためには自身の考えと比べたり、新しく知ったことを納得したりと、受動的ではなく、能動的、主体的に聞いているからだと思います。左から3枚目のスライドに書いているように、話し手をリスペクトする態度であり、好感を持たれるという人間関係にもよい影響をもたらします。習慣となるようにご家庭でも言葉をかけていただければと思います。

「手をあげる」のは、どんなときなのだろうか？

子どもたちにたずねてみたら..

- ・気づきや考えをもったとき
- ・発表を聞いて、思ったことがあるとき
- ・発表したいとき

11月の講話では、『語り合うためにその2』として、「手をあげること」について話をしました。

教員になりたての頃は、「手を挙げるのは、意見を持って発表したい子」であるととらえていました。しかし、発表したい子だけの意見で授業を進めるのは違うし、手を挙げていない子の頭やノートの中にも、よい考えがまとまっているものです。意見を持ったら、発表したい、したくないに関わらず、「手を挙げて合図する」ことを繰り返し指導しました。徐々に手を挙げる

子どもたちにたずねてみたら..

- ・気づきや考えをもったとき
- ・発表を聞いて、思ったことがあるとき
- ・発表したいときも、したくないときも

「手をあげる」とは、
気づきや考え、感想をもったという
【合図】
(発表したい人も、したくない人も出す)

この特別感・抵抗感は消え、たくさんの子どもの意見で授業が進むようになりました。発表したくてよく手を挙げ、指名されないと「あたらんやった。」と不満の声をを出していた子も言わなくなりました。こちらについても、ご家庭でお話していただければありがたいです。

画像はこちら⇒ [11月全校集会 | 長崎市立南陽小学校 \(nagasaki-city.ed.jp\)](https://nagasaki-city.ed.jp)

「コーチング」をご存じですか その3 長崎県教育センター公開講座佐藤敬子氏の講演資料より引用 3回目は、コーチングのスキルについてお伝えします。

- ①関係性のコーチングとして、あいさつに『プラス1(2秒程度の付け加え)』する。
例:「おはよう。休みの日はゆっくりできた?」「こんにちは。昨日の～どうだった?」
- ②「きく」スキルを高める・・・ポイントは、自分の関心より相手の関心をきく
聞く:耳で 訊く:口で(尋ねる) 聴く:心で(理解しようと心を傾ける)
- ③「認める」スキルを高める・・・変化、行動、姿勢、存在を認める
鏡に映るように、絵に描けるように具体的に。大きな○でなくてよく、小さな○をたくさんつけてあげる。